

“ナウマンゾウ”の産地・文献目録

高橋 啓 — *

“ナウマンゾウ”の標目録は、近年ではHas-
egawa(1972)の中にまとめられている。しかし、
その後各地から“ナウマンゾウ”の新しい産地が
報告されており、目録の追加の必要性がでてきた。

今回著者は、“ナウマンゾウ”についての文献を
集める機会があったので、ここにいままでの産地
と文献を、不十分ながらまとめた。産地名は、な
るべく新しい地名を使用するようにしたが、不明
のところは原記載どおりとした。ここにまとめた
もの以外にも標本が多数あると思われるので、こ
の機会に御教示いただければ幸いである。

なお、この目録を作るにあたっては、京都大学
理学部の亀井節夫教授をはじめとする古生物グル
ープの方々、秋田大学鉱山学部の高安泰助教授、
群馬県立前橋第二高等学校の宮崎重雄の諸氏から
は、文献や標本についての御教示を得た。また、
国立科学博物館の小野慶一氏、茨城県立藤代高等
学校の中村一夫氏、岐阜県立郡上高等学校の梶浦
敬一氏、広島県教育委員会事務局管理部文化課、
長岡市立科学博物館の方々には、貴重な文献を送
っていただいた。以上の方々に心からお礼申し上げる。

産地目録（数字は主な参考文献）

北海道

雨竜地方 60)

空知郡 48)49)

夕張郡栗山町円山 23)

広尾郡忠類村晩成 32)33)37)

青森県

上北郡七戸町天神林 44)91)92)

Takahashi, K.: List of localities and bibliog-
raphy of Naumann's elephant, *Palaeoloxodon*
naumanni (Makiyama), in Japan.

* 京都大学理学部地質学鉱物学教室

下北郡東通村赤坂 57)
下北郡東通村尻労アオベ山 7)
下北郡尻屋崎、採石場 7)

岩手県

西磐井郡花泉町金森 53)

秋田県

南秋田郡昭和町槻木 47)

南秋田郡、浜間口の海岸 14)

山形県

西田川郡温海町根津ガ関

村山市カシゴテン近くの最上川川床 7)

福島県

福島市渡利小倉寺 39)

新潟県

三島郡越路町塚野 54)

三島郡越路町飯塚 54)

柏崎市鯨波 63)

長野県

上伊那郡宮田村字南割 102)

北佐久郡浅科村八幡 101)

南佐久郡佐久町岸野相浜 101)

南佐久郡南牧村海ノ口 15)

上田市川西村当郷区塩之入竹花 16)17)

上水内郡信濃町、野尻湖 35)65)96)

小県郡塩田町下本郷区善明 16)17)

小県郡浦里村 100)

長野市西長野、裾花川左岸 97)

中野市大字小田中姥嬢 97)

山梨県

山梨市南兄川川床 61)

群馬県

利根郡川場村、桜川左岸 1)

太田市富沢字屋敷東 56)

吾妻郡嬬恋村 56)

栃木県

- 安蘇郡葛生町大叶, 吉沢採石場 51)75)95)
安蘇郡葛生町築地 75)95)
安蘇郡葛生町山管, 河原下洞, 山野井採石場
60)75)
安蘇郡葛生町大久保 75)
小山市大字粟宮, 思川崖下 38)
矢板市, 矢板立市西小学校敷地 80)

茨城県

- 稲敷郡桜川村阿波 40)58)
稲敷郡桜川村羽生 10)40)
稲敷郡木原村 60)
稲敷郡舟島村 60)
稲敷郡美浦村新屋敷後原 40)
稲敷郡美浦村馬掛沖霞ヶ浦 40)
稲敷郡牛久町久野上久野 40)
竜ヶ崎市馴馬町, 馴馬台地中部 40)
行方郡北浦村山田 40)
行方郡牛堀町牛堀 40)59)
行方郡麻生町白浜沖霞ヶ浦 60)74)
行方郡麻生町粗毛 40)
土浦市田村町沖霞ヶ浦 40)
新治郡佐賀村字志戸崎沖霞ヶ浦 48)60)99)
新治郡桜村上広岡, 砂採取場 45)
新治郡桜村上広岡, えのき橋下流 45)
新治郡桜村, 花室川川床 45)
真壁郡下江連十二天崖, 鬼怒川川床 60)
筑波郡谷和原村 68)
那珂郡大宮町西塩子, 所貫 68)

千葉県

- 木更津市中尾 48)
木更津市清見台, 八幡製鉄宿舎の東 7)
木更津市環村山脇 48)
市川市, 江戸川の橋下 43)99)
市川市高谷新町, 富士航運 7)
佐倉市上別所, 砂取り場 25)
佐倉市御戸 7)
佐倉市萩山 7)
野田市目吹, 利根川川床 7)
印旛郡印旛村瀬戸 7)
印旛沼 48)60)74)
香取郡下総町猿山 24)26)27)67)
君津郡袖ヶ浦町岩井 60)

埼玉県

- 比企郡滑川村福田中在家 11)

- 児玉郡児玉町元田 11)
大里郡寄居町桜沢 11)

東京都

- 北区, 田端駅の崖 89)
板橋区加賀1丁目10番 78)
板橋区板橋町, 元都電板橋駅前電停前 78)
板橋区志村 7)
板橋区徳丸 7)
豊島区西池袋1-1, 池袋駅 79)
台東区上野, 松坂屋前 72)
台東区上野, シチズン前 7)
台東区2丁目, 元都電池の端駅 7)
台東区蔵前3-1 7)
中央区日本橋, 日本銀行地下 90)
中央区日本橋室町2-1, 三井不動産別館地下60)
中央区日本橋浜町2丁目37-2 64)
中央区, 白木屋地下 60)
千代田区5番町, 英国大使館前 7)
港区芝浦 7)
渋谷区神宮町6丁目 7)
西多摩郡五日市町天正寺, 川床 48)

神奈川県

- 川崎の近くのミクリヤ 44)
横浜市鶴見区, 鶴見川川口 91)
横浜市鶴見区上末吉6-2-2 7)
横浜市南区大岡町 103)
藤沢市伊勢山辺 46)
鎌倉市腰越 7)
横須賀市, 白仙山 61)
横須賀市長井町大木根 6)48)

静岡県

- 静岡県小鹿3-4-3, 静岡大小鹿寮 7)
清水市南矢部 98)
浜松市佐浜町 41)42)44)99)
引佐郡引佐町井伊谷 85)
引佐郡細江町祝田 86)
引佐郡引佐町白岩 13)
引佐郡三ヶ日町兄木 87)
榛原郡勝間田村ウトロ沢 60)
榛原郡菅山一大和ヶ谷 60)
庵原郡鷺ノ田礫層 60)

愛知県

- 西尾市菱池町 48)

岐阜県

- 郡上郡八幡町, 熊石洞 3)4)

富山県

東砺波郡平村祖山 50)52)

石川県

鹿島郡西島村, 半ノ浦海底 48)

鹿島郡七尾町 49)

和歌山県

海草郡友ヶ島沖 20)29)

滋賀県

犬上郡多賀町久徳, 芹川川床 18)20)

大津市南郷町, 瀬田川川床

大阪府

岸和田市岸城町, 五風荘邸内 19)20)

兵庫県

飾磨郡家島諸島松島南方沖 20)

三原郡南淡町汐崎西方沖 20)

三原郡西淡町沖, 鳴門海峡 20)

高砂市尾上町沖 20)

明石市大久保, 西八木海岸の崖 20)

明石市二見町東二見海岸 60)

明石市, 播磨灘 20)

芦屋市奥山町 20)

加古川市西神吉町長慶 20)

島根県

簸川郡, 日御崎沖 31)

浜田市沖 31)

隠岐島 5.5 Km沖 7)

岡山県

新見市宇山, 宇山洞 8)

倉敷市下津井沖

広島県

豊田郡斎島と大崎下島の間 7)

諸島水道沖 77)21)

山口県

美弥郡秋芳町秋吉台 76)

美弥郡秋芳町秋吉台風船穴 66)76)

美弥郡秋芳町秋吉台長者ヶ錦採石場 66)

美弥郡秋芳町馬コロビ 66)

美弥郡秋芳町秋吉台, 万倉地採石場 66)

美弥郡秋芳町於福台, 安藤大理石採石場 66)

美弥郡大領町, 重安採石場 66)

美弥市伊佐町, 宇部鉱産 77)

阿武郡阿東町徳佐 7)

大島郡東和町沖家室沖 81)

大島郡, 諸島と片山島・二神島の間 23)

香川県

坂出市砂弥島西方 2 Km沖 7)

丸亀市 8 Km沖とヤジマの沖 7)

小豆郡小豆島沖 7)44)

香川郡小槌島沖 94)

直島水道 21)

三豊郡山本町神田砂川 2)

備讃海峡 60)

徳島県

鳴門市大毛島黒山沖, セリマワシ瀬 20)

高知県

高岡郡佐川町 48)

高知市の沖 60)

愛媛県

温泉郡百合島 1 Km沖 7)

福岡県

北九州市門司区恒見 30)

北九州市小倉南区平尾台, 牡鹿洞 5)

北九州市小倉南区平尾台, 青竜窟 9)

福岡市老司付近那珂川川床 30)55)

長崎県

南高来郡南有馬町, 大江海岸 30)

大分県

東国東郡姫島南西沖 30)

熊本県

天草郡大矢町湯島の北 2 Km沖 30)

宮崎県

西都市都於郡町奈良瀬 30)

文献目録 (アルファベット順)

- 1) 新井房夫・鹿間時夫, 1955; 群馬県利根郡川場村産象歯化石について。地質雑, 61, 505-507.
- 2) 古市光信・板東祐司・石井利邦, 1977; 香川県三豊層から発見された旧象化石について (予報). 香川大学教育学部研究報告, 27, 1, 29-35.
- 3) 岐阜県立郡上高等学校生物部, 1976; 奥美濃に2万年前ヒグマやゾウが住んでいた. はざこ 11号, 1-60.
- 4) 長谷川善和, 1968; 日本から産出したヘラジカ化石とその意義について. 自然科学と博物館, 35, 12, 8-20.
- 5) Hasegawa, Y. Yamauti, H. & Okafuji, G., 1968; A fossil assemblage of Maccaca and Homo from Ojikado-cave Hiraodai karst pl-

- ateau, northern Kyushu, Japan. Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., 69, 218-229.
- 6) 長谷川善和・蟹江康光, 1971: 横須賀市大木根の宮田層産ナウマン象, 横須賀市博物館研報, 18, 36-42.
- 7) Hasegawa, Y., 1972: The NAUMANN'S Elephant, *Palaeoloxodon naumanni* (MAKIYAMA) from the Late Pleistocene off Shikagahana, Shodoshima Is. in Seto Inland Sea, Japan. Bull. Nat. Sci. Mus. 15, 513-591.
- 8) 長谷川善和・山内浩, 1977: 阿哲石灰岩台地の宇山洞産ナウマン象歯化石, 洞窟学雑, 2, 19-26.
- 9) ———, 1977: 赤ちゃんナウマン象の化石発見, 科学朝日, 8, 92-93.
- 10) 蜂須紀夫・幸田博, 1977: 茨城県桜川村より“ナウマン象”の発見, 地質雑, 83, 545-546.
- 11) 堀口万吉, 1975: 比企郡滑川村産出のナウマン象臼歯化石について, 埼玉研究, 26, 2-4.
- 12) 北海道開拓記念館, 1972: 忠類産ナウマン象, 道開拓記念館, 資料解説シリーズ, 1.
- 13) 藤正彦, 1979: DIE NATUR. 2, 1, 東海中学校 地学.
- 14) Huzioka, K. & Takayasu, T. & Matoba, Y., 1970: The Kamayachi formation (Pleistocene), Oga peninsula, northeast Japan. J. Min. Coll. Akita Univ., [A], 5, 4, 35-50.
- 15) 井出淳一, 1936: 長野県野辺山原に於ける象歯化石と基の地層に就いて, 地球, 25, 281-289.
- 16) 飯島南海夫, 1936: 上田小県誌, 4, 自然篇, 155-156.
- 17) ———・山辺邦彦・甲田三男・石和一夫・小宮山孝一, 1969: 千曲川上流地方の第四紀地質(その3) — とくに上小湖成層について, 地球科学, 23, 63-72.
- 18) 池部展生, 1959: 近畿における旧象化石の分布, 第四紀研究, 1, 109-118.
- 19) ———, 石田志朗・千地万造, 1965: 近畿における旧ゾウ化石の分布と層準, 化石, 9, 1-2.
- 20) Ikebe, N. Chiji, M. & Ishida, S., 1966: Catalogue of the Late Cenozoic Proboscidea in the Kinki District, Japan. J. Geosci. Osaka City Univ., 9, 3, 47-56.
- 21) 今村外治, 1961: ナウマン象と瀬戸内海, 広島県文化財ニュース, 10, 2-3.
- 22) 今村外治, 1964: 龍骨(タツノホネ)と瀬戸内海, 同上, 22, 2-3.
- 23) ———, 1967: 広島湾南方瀬戸内海域の第四系に関する諸問題, 地質雑, 73, 122.
- 24) 犬塚則久, 1971: 千葉県猿山産のナウマンゾウ頭蓋(予報), 化石研誌, 4, 35-37.
- 25) ———・真野勝友・大森昌衛, 1975: 千葉県佐倉市上別所から産出したナウマンゾウについて, 第四紀研究, 14, 5-19.
- 26) ———, 1977: 千葉県下総町猿山産のナウマンゾウ(*Palaeoloxodon naumanni*)の頭蓋について, 地質雑, 83, 523-536.
- 27) ———, 1977: ナウマンゾウ(*Palaeoloxodon naumanni*)の起源について — 頭蓋の比較骨学的研究, 同上, 83, 639-655.
- 28) 石狩低地帯団研グループ, 1963: 北海道からナウマン象の臼歯の化石発見, 地球科学, 69, 42-63.
- 29) 市原実, 1961: 友ヶ島沖ナウマン象化石床について, 嶺山次郎教授記念論文集, 11-15.
- 30) 亀井節夫, 1964: 有明海の旧象化石について, 資源研彙報, 62, 109-120.
- 31) ———, 1967: 日本海南部海底のナウマン象化石, 九十九地学, 2, 24-31.
- 32) ———, 1970: 北海道広尾郡忠類村におけるナウマン象の発掘について, 化石研会誌, 3, 1-10.
- 33) ———・樽野博幸・小林巖雄, 1971: 北海道広尾郡忠類村産ナウマン象について(予報), 道開拓記念館研報, 1, 27-28.
- 34) ———・犬塚則久, 1973: 日本のナウマン象化石, 日本化石集, 第28集, 築地書館, 東京.
- 35) Kamei, T. & Taruno, H., 1973: Note on the occurrence of the latest pleistocene mammals from Lake Nojiri (part 1). Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., [Geol. Min.], 39, 99-122.
- 36) 亀井節夫, 1977: ナウマンゾウについて, 植物分類地理, 28, 84-87.
- 37) ———, 1978: 忠類産のナウマンゾウ *palaeoloxodon naumanni* (MAKIYAMA), 地団研専報, 22, 345-355.
- 38) 金森定敏, 1972: 小山市でナウマン象臼歯の化石を発見, 国土と教育, 16, 46.
- 39) 小林学, 1940: 福島市附近より発見せる象歯化石と基の産出地層, 地質雑, 47, 171-174.
- 40) 幸田博・高橋一郎・宮本幸男・下河哲雄・中

- 村一夫・蜂須紀夫, 1974: 茨城県における旧象化石(その1)―霞ヶ浦・北浦周辺. 茨城県立教育研修センター理科研究集録, 8, 53-65.
- 41) Makiyama, J., 1924: Notes on a fossil elephant from Sahanma, Totomi. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ., [B], 1, 255-264.
- 42) 嶺山次郎, 1924: 遠州浜名湖畔に出た旧象と其の地層. 地球, 1, 377-381.
- 43) ———, 1926: 江戸川に発掘された象. 地球, 6, 337-381.
- 44) Makiyama, J., 1938: Japonic Proboscidea. Mem. coll. Sci. Kyoto Imp. Univ., [B], 14, 1-59.
- 45) 増田富士雄・青木直昭・長谷川善和・佐藤正, 1978: 筑波研究学園都市, 花室川流域から産出したナウマン象化石. 筑波の環境研究, 3, 181-186.
- 46) 町田洋・松島義章, 1976: 下末吉海進初期の古環境に関する若干の資料. 第四紀研究, 15, 3, 136-140.
- 47) Matsumoto, H., 1918: On some fossil mammals from Tsukinoki, Ugo. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., [Geol.], 3, 39-49.
- 48) 松本彦七郎, 1924: 日本産化石象の種類(略報). 地質雑, 31, 255-272.
- 49) Matsumoto, H., 1929: On Loxodonta (Palaeoloxodon) namadica (FALCONER and CAUTLEY) in Japan. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., [Geol.], 13, 1-5.
- 50) ———, 1929: On Loxodonta (Palaeoloxodon) tokunagai MATSUMOTO, with remarks on the descent of Loxodontine elephants. Ibid., 8, 7-11.
- 51) 松本彦七郎, 1938: 本邦産化石哺乳類に就て. 動物学雑誌, 50, 481-487.
- 52) ———, 1939: 上総及び下野国産化石象に就て. 同上, 701-717.
- 53) Matsumoto, H., Mori, H., Marui, K. & Ozaki, H., 1959: On the discovery of the upper Pliocene fossiliferous and culture-bearing bed at Kanamori, Hanaizumi Town, Province of Rikuchu. Bull. Nat. Sci. Mus., 4, 287-324.
- 54) 松本彦七郎, 森一, 北目子良, 中村孝三郎, 1968: 渋海川河原産旧象二種に就て. 長岡科学博物館考古研究室調査報告書, 9, 22-26.
- 55) 松尾信一・吉村圭介, 1953: 福岡市出土の旧象化石について. 九大農学部学芸誌, 14, 189-194.
- 56) 中島啓治・大沢澄可・宮崎重雄, 1978: 群馬県太田市富沢よりナウマンゾウの臼歯発見. 地球科学, 32, 254-256.
- 57) 中島全二・桑野幸雄, 1957: 下北半島尻屋崎における第四紀哺乳類化石の産出状況について. 資源研彙報, 43, 44, 153-159.
- 58) 中村一夫・幸田博・宮本幸男・高橋一郎, 1973: 茨城県稲敷郡桜川村より旧象化石の発見. 第四紀研究, 12, 125-127.
- 59) ———・下河哲雄, 1974: 茨城県行方郡牛堀町産旧象化石. 大山年次教授退官記念誌, 45-50.
- 60) 直良信夫, 1959: 日本旧石器時代の研究. 早稲田大学, 東京.
- 61) 直良信夫, 1968: 狩猟. 法政大学出版局, 東京.
- 62) Naumann, E., 1882: Japanische Elefanten der Vorzeit. Palaeontogr., 28, 1-39.
- 63) 新潟県地学教育研究会米山グループ・柏崎科学教育研究会, 1965: 米山海岸鯨波におけるナウマン象産出露頭の花粉分析および硅藻化石について―米山海岸の研究・その2. 新潟県地学研究会誌, 3, 24-27.
- 64) 日本橋ナウマンゾウ研究グループ, 1978: 東京日本橋浜町に於けるナウマンゾウ化石の発掘について. 地球科学, 32, 83-85.
- 65) 野尻湖発掘調査団編, 1975: 野尻湖の発掘. 共立出版, 東京.
- 66) 岡藤五郎, 1971: 秋吉台および周辺の化石図集. 山口県教育財団, 1-147.
- 67) 大森昌衛・磯辺大暢・真野勝友・犬塚則久・成田層の古環境団研グループ, 1971: 千葉県香取郡下総町猿山から産出したいわゆる“ナウマンぞう”の頭骨化石について(予報). 第四紀研究, 10, 92-96.
- 68) ———・蜂須紀夫編著, 1979: 日曜の地学(8) 茨城の地質をめぐって. 165-172. 築地書館, 東京.
- 69) Osborn, H., 1942: Proboscidea. 2, 1289-1301. Amer. Mus. Nat. Hist., New York.
- 70) 尾崎博, 1959: 東京都の地質9―東京都台東区南稲荷町の象牙の化石. 自然科学と博物館, 26, 5・6, 96-105.
- 71) ———, 長谷川善和: 瀬戸内海小豆島産ナウマン象. 自然科学と博物館, 36, 7・8, 195-201.
- 72) 佐伯四郎, 1930: 地下鉄工事中に発見されたる象の歯に就いて. 地質雑, 37, 25-26.
- 73) 齊藤禎男, 1974: これがナウマンの化石骨だ. 北苑社, 北海道.

- 74) 鹿間時夫, 1937 : 日本産化石長鼻類の標本產地及び文献. 斉藤報恩会時報, 122, 9-28.
- 75) Shikama, T., 1949: The Kuzuü Ossuaries. Sci. Rep. Tohoku Univ., [Geol.], 23, 1-201.
- 76) ——— & Okafuji, G., 1958: Quaternary cave and their fossil in Akiyosi district. Yamaguti Prefecture. Sci. Rep. Yokohama Nat. Univ. Sec. 2, 7, 43-103.
- 77) ———, 1965: On some elephant teeth from Hiroshima and Yamaguchi Pref. Ibid, 12, 27-36.
- 78) 鹿間時夫・長谷川善和, 1969: 板橋で発見された象化石. 板橋の考古学, 1304-1310.
- 79) Shikama, T. & Kanno, S., 1970: On an Elephant found at Ikebukuro station, Tokyo. Sci. Rep. Yokohama Nat. Univ. Sec. 2, 16, 51-60.
- 80) 鈴木陽雄・岡田曲枝, 1976 : 栃木県矢板市の第四系川崎層群からナウマン象の産出. 宇都宮大教育学部紀要, 26, 2, 37-42.
- 81) 高橋英太郎, 1954 : 山口県沖家室産象牙化石. 地学研究, 7, 108.
- 82) 高井冬二, 1938 : 本邦に於ける新生代哺乳動物(予報). 地質雑, 45, 744-763.
- 83) ———, 1939 : 本邦新生界産哺乳動物のものに就て(其の1). 同上, 46, 481-489.
- 84) ———, 1940 : 新潟県下に発見された2象歯化石に就て. 同上, 47, 339-342.
- 85) ———, 1958 : 静岡県引佐郡井伊谷村産象歯化石について. 第四紀研究, 1, 58-61.
- 86) Takai, F. & Tsuchi, R., 1959: Note on the fossil elephant recently found in the Sahama mud, Shizuoka prefecture, Japan. Quat. Res., 1, 164-173.
- 87) 高井冬二, 1962 : 三ヶ日人と三ヶ日兄木石灰岩採石場の含化石層. 人類学雑誌, 70, 1, 36-40.
- 88) 十勝団体研究会, 1971 : 十勝国忠類村字晩成における象産出地点の泥炭層の ^{14}C 年代. 地球科学, 25, 187-188.
- 89) Tokunaga, S., 1906: Fossils from the environs of Tokyo. J. Coll. Sci. Univ. Tokyo, 21, 72-75.
- 90) 徳永重康, 1933 : 東京にて発掘した象化石. 地質雑, 45, 419-426.
- 91) ———, 1934 : 横浜市及び神奈川県柿生村発見の象歯化石に就て. 同上, 46, 363-371.
- 92) ———, 1936 : 青森県七戸町附近の地質と出土の象化石, 同上, 48, 67-70.
- 93) Tokunaga, S. & Takai, F., 1936: On a fossil elephant, *Palaeoloxodon aomoriensis*, from Shichinohe, Kamikita-gun, Aomori Prefecture, Japan. J. Geol. Soc. Jap., 43, 254-258.
- 94) 徳永重康・高井冬二, 1937: 瀬戸内海産化石象に生じた歯牙腫に就て. 地質雑, 44, 444-446.
- 95) Tokunaga, S. & Takai, F., 1933: Fossil elephants from Totigi Prefecture, Japan. Jap. J. Geol. Geogr., 15, 69-82.
- 96) 富沢恒雄, 1956 : 長野県北部野尻湖周縁の地質と象化石. 地質雑, 62, 409-414.
- 97) ———, 1979 : 長野盆地周縁のナウマンゾウ化石産出層について. 同上, 85, 258-260.
- 98) 土隆一, 1958 : 久能山礫層から *Palaeoloxodon namadicus naumanni* MAKIYAMA の産出について. 同上, 64, 311-312.
- 99) 脇水鉄五郎, 1918 : 浜名湖畔の旧象化石, 同上, 25, 133-141.
- 100) 八木貞助, 1928 : 瀬戸内海産及其他二種の象化石に就て, 地質雑, 40, 385-391.
- 101) ———, 1931 : 信濃国佐久地方産の象歯化石と其地層に就て. 同上, 43, 217-222.
- 102) ———, 1932 : 長野県小県郡浦里村産の化石哺乳類, 同上, 54, 30-34.
- 103) Y, 1914 : 横浜より出たる象歯. 地質雑, 21, 44-45 (1979年11月7日受理)

補遺

(産地)

青森県

上北郡上北町, 小川原湖水泳場 104)

福島県

安積郡岩代熱海町, 町営グラウンド 105)

新潟県

中魚沼郡津南町見玉 54)

富山県

上新川郡大沢野町 106)

(文献)

104) 青森県地学教育研究会編, 1975 : 日曜の地学(2)青森・太平洋側をめぐる. 57-75, 築地書館, 東京.

105) 郡山研究グループ, 1962 : 郡山盆地北部第四系および地形——郡山盆地の第四紀地史の研究(その1). 地球科学, 58, 11-17.

106) 粕野義夫編著, 1979 : 日曜の地学(6)北陸の地質をめぐる, 170-171, 築地書館, 東京.